

付着生物ラーバ情報

キヌマトイガイのラーバ出現数が増加しています

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称: ハナ)

ラーバは見られていません(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称: コメガキ)

ラーバは奥内沖で1月15日に8.3個体/m³、久栗坂沖で1月12日に19.4個体/m³、1月18日に100.0個体/m³、川内沖で1月18日に53.1個体/m³見られました(図3)。

(3) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)

クラゲは見られていません。

(4) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は久栗坂沖で1月12日に0.6個体/m³見られました。

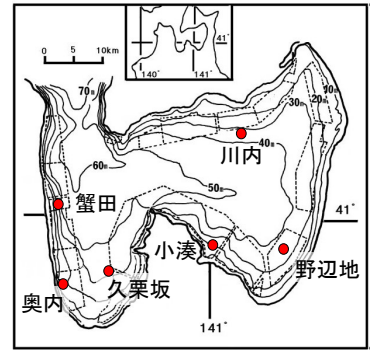


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ガラホヤ	キヌマトイガイ	ムラサキガイ	単位: 個体/m ³			
						オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝	ラーバ	マホヤ 卵
奥内沖	R3.1.15	0.0	0.0	8.3	59.2	0.0	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R3.1.12	0.0	0.0	19.4	16.7	0.0	0.6	0.0	0.0
川内沖	R3.1.18	0.0	0.0	100.0	113.3	0.0	0.0	0.6	0.0
川内沖	R3.1.18	0.0	0.0	53.1	70.3	0.0	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は3~10℃台と平年並み~低めになっています。

(1) ユウレイボヤ

例年のラーバ出現ピークは過ぎています。

これまでの調査で、冬季の平均水温が8℃以上もしくはラーバ累積出現数が5個体/m³以下であれば春の付着量が少ないことが分かっています(図4)。

冬季水温の平年値は青森湾で8.1℃、東湾湾で6.1℃ですが、**水温は平年並み~低めに推移**しているほか、奥内沖の累積ラーバ数も6.7個体/m³と多くなっています。また、**一部のパールネットに秋生まれのユウレイボヤが大量付着**し、輸卵管に卵を持った個体も見られていることから、分散済みの籠や耳吊りへ今後も**付着**する可能性があります。

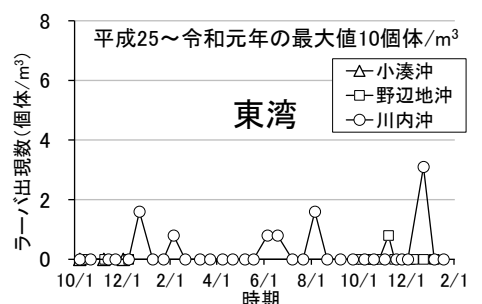
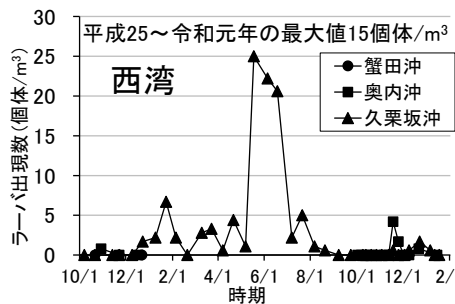


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(令和元年10月~令和3年1月)

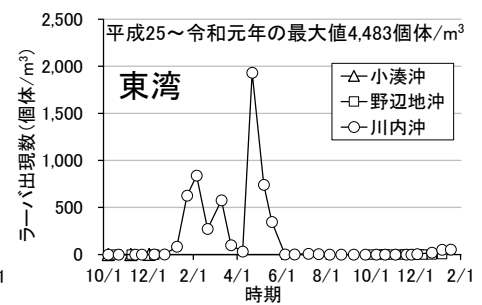
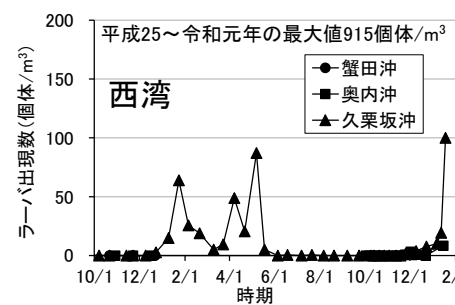


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(令和元年10月~令和3年1月)

(2) キヌマトイガイ

ラーバ出現数が増加してきたことから、今後**籠や耳吊り、マホヤ採苗器への付着が増加**するものと思われます。

(3) アミクサ、オベリア類

アミクサの小枝がわずかに見られましたが、これから春にかけてアミクサの小枝が本格的に出現し、オベリア類のクラゲが出現するものと思われます。

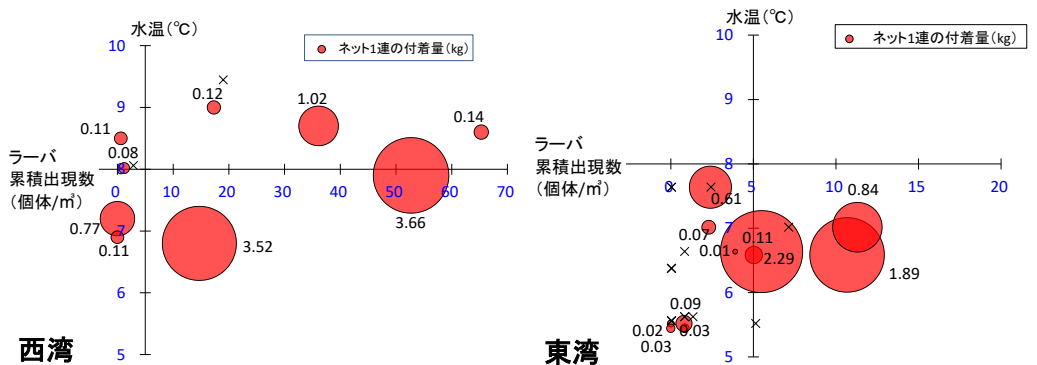


図4 平成16年~令和元年のユウレイボヤのラーバ累積出現数、青森湾または東湾湾水深15mの冬季の平均水温と翌春のパールネット1連の付着量の関係(O印の中心はプロット位置、面積は付着量、×は付着量が0kg)